



食料品やホテルの宿泊料など、さまざまなものが値上げされています。では、商品やサービスの価格はどのように決まっているのでしょうか。

物価は、主に

需要量と**供給量**

で決まる！！

ものの価格のことを「物価」といいます。この物価はおもに、需要量と供給量によって決まります。今回はこの需要と供給について、学習していきましょう！

公立入試必勝ポイント①

物価は、主に

需要量と**供給量**

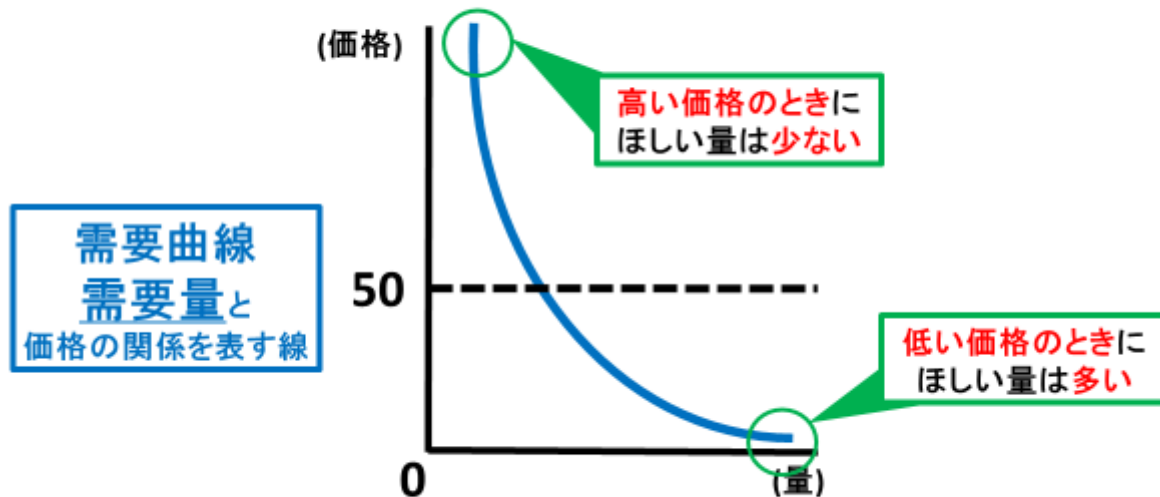
で決まる

需要量 → 買いたい(ほしい)量

供給量 → 売りたい量

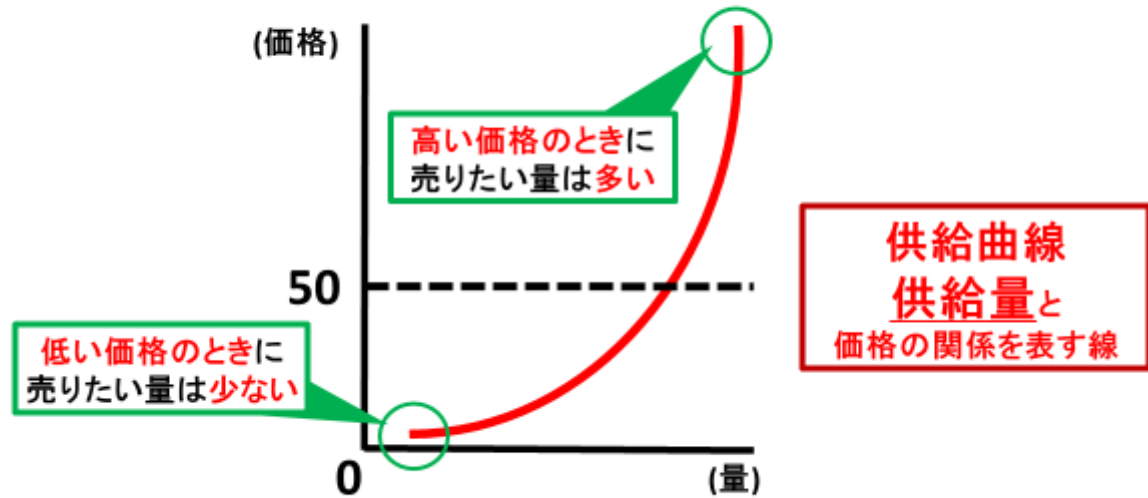
需要量とは「特定の価格に対して消費者が購入したいと考える商品の数量」、つまり「買いたい量」のことを指します。供給量とは「市場において販売される商品やサービスの数量」のこと、つまり「売りたい量」のことを指します。

需要量と供給量のグラフ



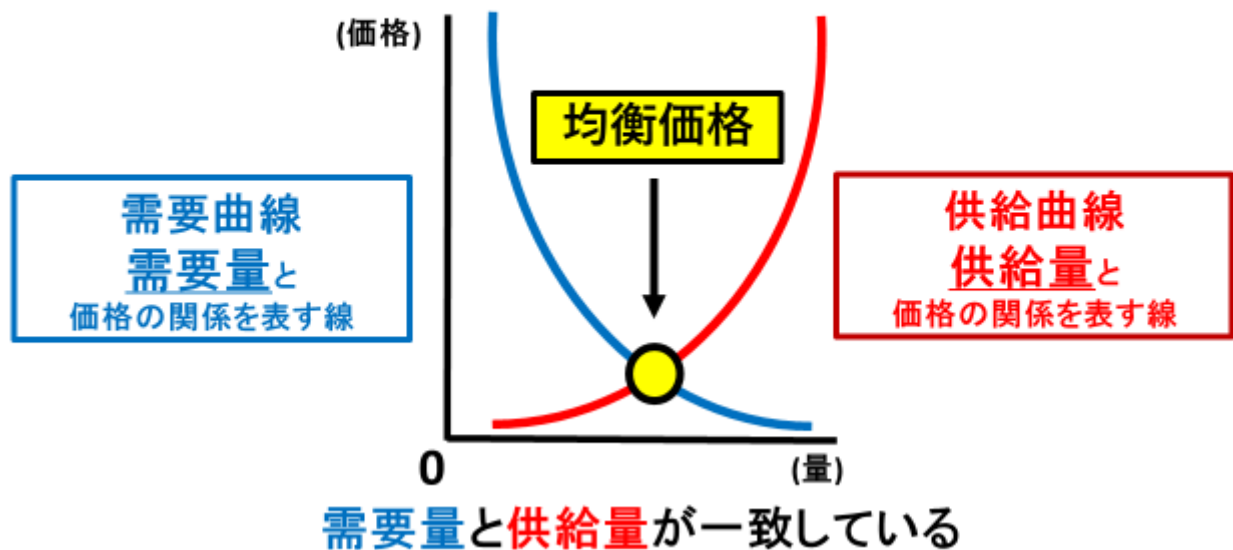
需要量と供給量はグラフで表すことができます。物の価格が高くと、欲しいと思う人は少なくなります。一方、価格が安いときは欲しいと思う人が多くなります。この関係を表す青い曲線を「需要曲線」といいます。

需要量と供給量のグラフ



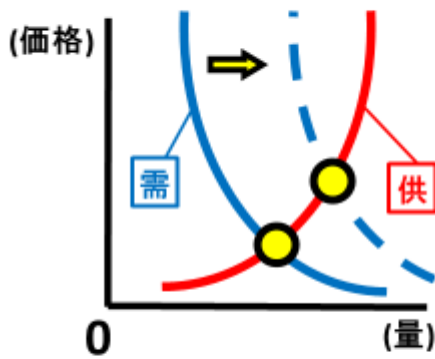
物の価格が高いときには、売りたいと思う人が多くなります。一方で、価格が安いときには売りたいと思う人が少なくなります。この関係を表す曲線を「供給曲線」といいます。

需要量と供給量によって価格が決まる

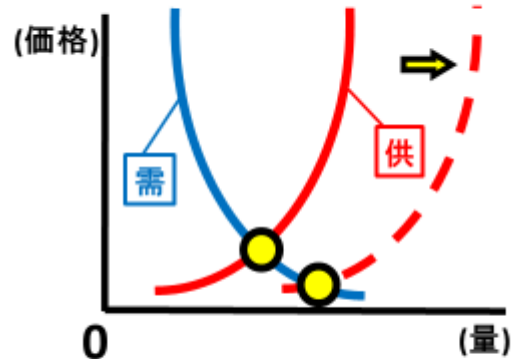


二つの曲線が交わった点の価格を「均衡価格」といいます。このように、物の価格というのは需要量と供給量の間によって決まっています。

量が増えると曲線は右に動く



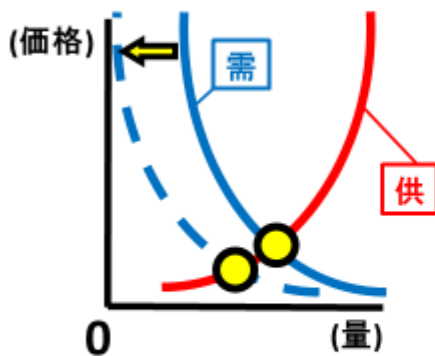
★需要量が増える
価格は上がる



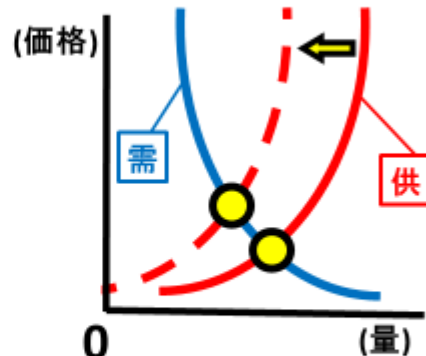
★供給量が増える
価格は下がる

需要量が増えると、グラフの青い曲線が右に移動します。そうすると、曲線の交わる点の位置が高くなり、価格が上がったことがわかります。一方、供給量が増えると赤い曲線が右に移動します。曲線の交わる点の位置が低くなり、価格が下がったことがわかります。

量が減ると曲線は左に動く



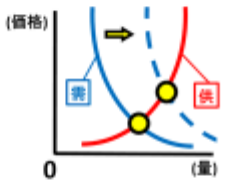
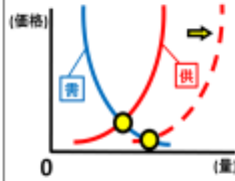
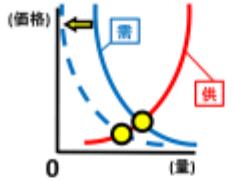
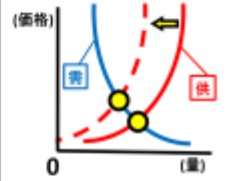
★需要量が減る
価格は下がる



★供給量が減る
価格は上がる

需要量が減ると青い曲線が左に移動します。すると、曲線の交点の位置が低くなり、価格が下がったことがわかります。一方、供給量が減ると赤い曲線が左に移動します。すると、曲線の交点の位置は高くなり、価格が上がったことがわかります。

公立入試必勝ポイント②

	曲線が 右 に動く		曲線が 左 に動く	
グラフの変化				
需要量と供給量の変化	需要量が 増加	供給量が 増加	需要量が 減少	供給量が 減少
価格	上がる	下がる	下がる	上がる

このように、需要量、供給量の変化に伴って価格が変化します。グラフの動きも含めて覚えておきましょう。

公立入試必勝ポイント③

需要量 > 供給量

価格は上がる

需要量が供給量を上回っているとき、価格は上がります。

公立入試必勝ポイント③

需要量 < 供給量

価格は下がる

供給量が需要量を上回っているとき、価格は下がります。

出来事	原因	需要と供給の関係
小麦の輸入 価格の高騰 (2023年)	①干ばつによる不作 ②ロシアのウクライナ侵略	需要量 > 供給量
電気自動車(EV) 価格の下落 (2024年～)	①インフラ整備などの不足 ②市場の変化	需要量 < 供給量
日本のホテル 価格の高騰 (2023年～)	①訪日外国人の増加 ②人件費の高騰	需要量 > 供給量

日々の暮らしにも需要と供給は大きく関わってきます。近年では、2023年、小麦の輸入価格が高騰しました。アメリカやカナダでの小麦の不作や、小麦で有名なウクライナにロシアが侵攻したことで供給量が減りました。これらが原因となり、需要量が供給量を上回り、小麦の価格が高騰しました。

ほかにも、電気自動車の価格の下落や日本のホテルの宿泊費の高騰などが挙げられます。

入試問題にチャレンジ

〈令和4年度埼玉県公立入試 大問5 問4(1)〉

問4(1)

次の資料は、とある市場についてまとめたものです。もも1個の価格が300円のときの需要量と供給量の関係についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号で答えなさい。

〈令和4年埼玉県公立入試 大問5〉

【資料】

ある地域で、もも1個の価格と買いたい量、売りたい量との関係についてアンケート調査を行いました。次はその結果です。

買いたい量について

価格(円)	100	200	300	400
買いたい量(個)	80	50	30	20

売りたい量について

価格(円)	100	200	300	400
売りたい量(個)	20	50	70	80

入試問題にチャレンジしてみましょう。資料を読み取って、選択肢の中から正しいものを選ぶ問題です。

問4(1)

次の資料は、とある市場についてまとめたものです。もも1個の価格が300円のときの需要量と供給量の関係についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号で答えなさい。

〈令和4年埼玉県公立入試 大問5〉

- ア. 需要量が30個であり供給量が70個なので、ももは40個売れ残る。
- イ. 需要量が30個であり供給量が70個なので、ももは売り切れる。
- ウ. 需要量が70個であり供給量が30個なので、ももは40個売れ残る。
- エ. 需要量が70個であり供給量が30個なので、ももは売り切れる。

問4(1)

もも1個の価格が300円のときの需要量と供給量の関係について…。

〈令和4年埼玉県公立入試 大問5〉

資料を確認

買いたい量について ➡ 需要量

価格(円)	100	200	300	400
買いたい量(個)	80	50	30	20

売りたい量について ➡ 供給量

価格(円)	100	200	300	400
売りたい量(個)	20	50	70	80

需要量 < 供給量

30個 < 70個

供給量が40個多い

資料を確認してみましょう。「買いたい量」は需要量、「売りたい量」は供給量を表しています。価格が300円の時の需要量は30個、供給量は70個となります。比べてみると、供給量が40個分多いことがわかります。

問4(1)

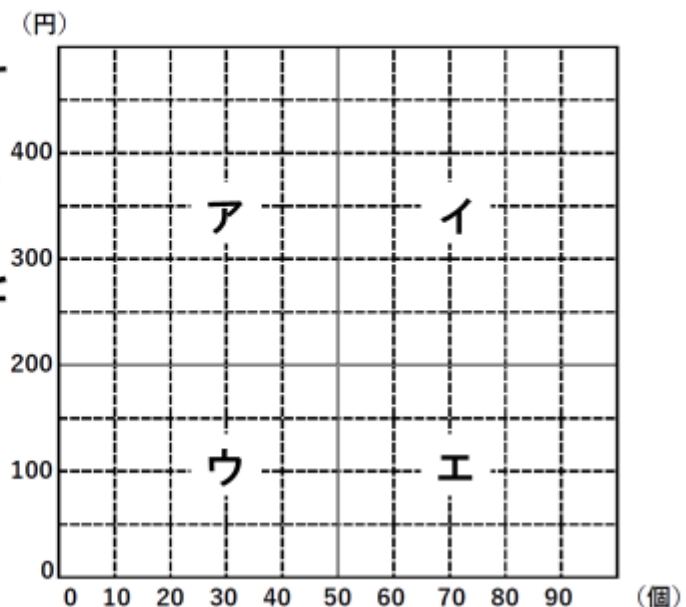
- ア. 需要量が30個であり供給量が70個なので、ももは40個売れ残る。
- イ. 需要量が30個であり供給量が70個なので、ももは売り切れる。
- ウ. 需要量が70個であり供給量が30個なので、ももは40個売れ残る。
- エ. 需要量が70個であり供給量が30個なので、ももは売り切れる。

需要量	供給量	
30個	70個	<
		ももが40個余る

したがって、供給量が40個多いことから、ももが40個売れ残るということがわかり、「ア」が正解となります。

問4(2)

ももの評判が上がり、需要が増えたとします。このときの需要曲線と供給曲線の交点が位置する領域として最も適切なものを、次の図中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。ただし、供給には変化がないものとします。



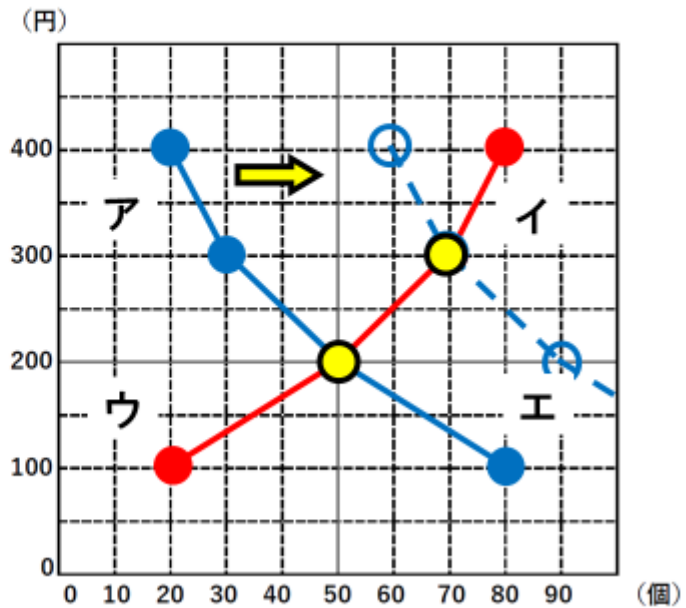
次の問題では、需要が増えた場合の需要曲線と供給曲線の交点の位置を考えます。

問4(2)

ものの評判が上がり、需要が増えたとします。

公立入試必勝ポイント②

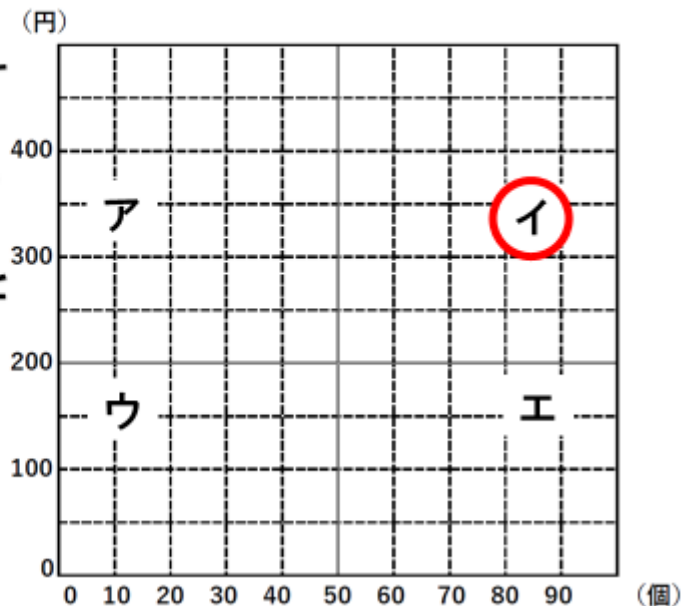
グラフの変化	曲線が 右 に動く
需要量と供給量の変化	需要量が増加
価格	上がる



ポイント②を思い出してみましょう。需要量が増えると、需要曲線は右に移動します。すると、曲線の交点は右上に移動し、価格が上がったことがわかります。

問4(2)

ものの評判が上がり、需要が増えたとします。このときの需要曲線と供給曲線の交点が位置する領域として最も適切なものを、次の図中のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。ただし、供給には変化がないものとします。



交点の位置が右上に移動したことから、「イ」が正解だとわかります。

A社 ペットボトル飲料



200円

B社 ペットボトル飲料



150円

※イラストはイメージです ACイラストより

さらに価格の知識を深めていきましょう。喉が渴いたので飲み物を買おうとします。同じ飲料が A 社では200円 B 社では150円で売られています。その場合、多くの人は B 社のものを買いますよね！

A社 ペットボトル飲料



120円

B社 ペットボトル飲料



150円

※イラストはイメージです ACイラストより

すると、A 社は B 社に対抗するために価格を下げて飲料を売ります。しかし、もし B 社がいなければ、A 社は価格を下げる必要はなく、価格は高いままだったかもしれません。

市場に企業が1社のみ又は少数の場合

- ・市場で商品を提供する企業が1社のみ状態

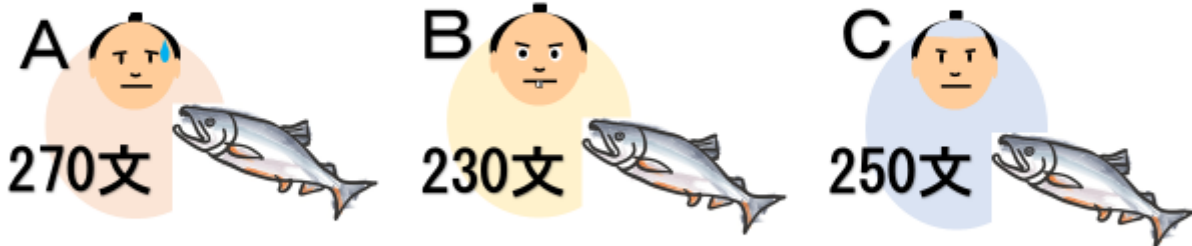
↳ 独占

- ・市場で商品を提供する企業が少数の状態

↳ 寡占

市場で商品を提供する企業が1社のみ状態を独占、少数の場合を寡占といいます。独占や寡占の状態が決まる価格を独占価格といい、消費者が不当に高い価格で商品を購入する状況になる可能性があります。そのため、独占禁止法を制定し、公正取引委員会が監視や指導を行っています。

同業者組合	室町時代	座
	江戸時代	株仲間

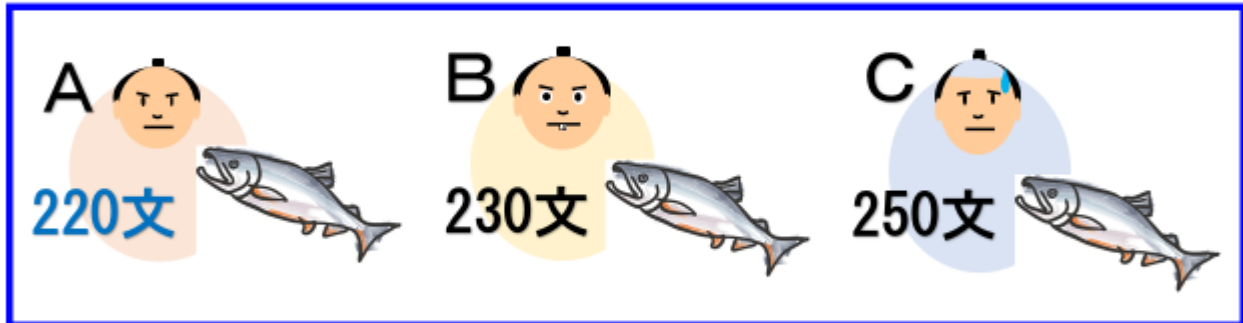


※ 文：日本の昔の通貨単位
1文＝約47円

※イラストはイメージです ACイラストより

実は、独占や寡占に関する知識は、歴史ですでに勉強しています。室町時代には「座」、江戸時代には「株仲間」と呼ばれる同業者組合がありました。たとえば、A、B、Cの3人の商人が魚を売っているとします。みなさんなら、誰から魚を買いますか？

同業者組合	室町時代	座
	江戸時代	株仲間

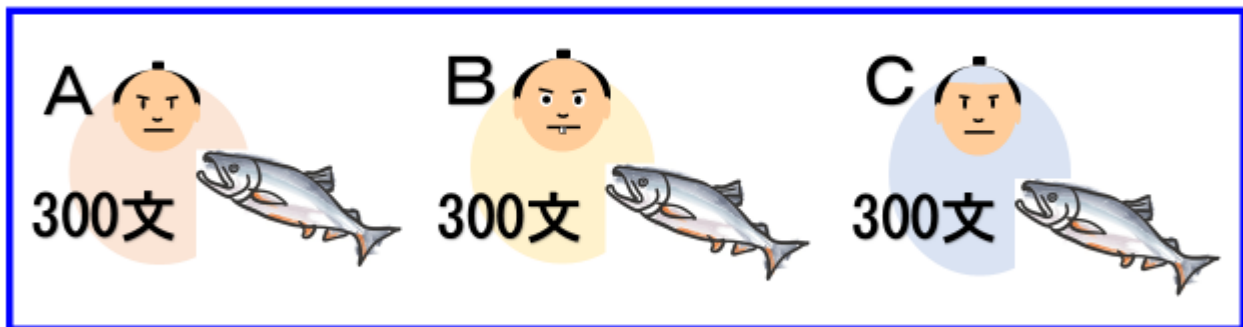


※ 文: 日本の昔の通貨単位
1文 = 約47円

※イラストはイメージです ACイラストより

1番安いBさんから買う人が多いと思います。すると1番高いAさんは、魚が売れずに困り、価格を下げます。そして、Cさんも同じように魚の価格を下げます。これが競争のある状態です。

同業者組合	室町時代	座
	江戸時代	株仲間



※ 文: 日本の昔の通貨単位
1文 = 約47円

※イラストはイメージです ACイラストより

しかし、座や株仲間では、3人とも同じ仲間になります。すると、競争がおこらず、3人とも高い価格で売ることになります。

同業者組合	室町時代	座
	江戸時代	株仲間

【江戸時代】



田沼意次

株仲間を奨励し
特権を与える代わりに
営業税を徴収

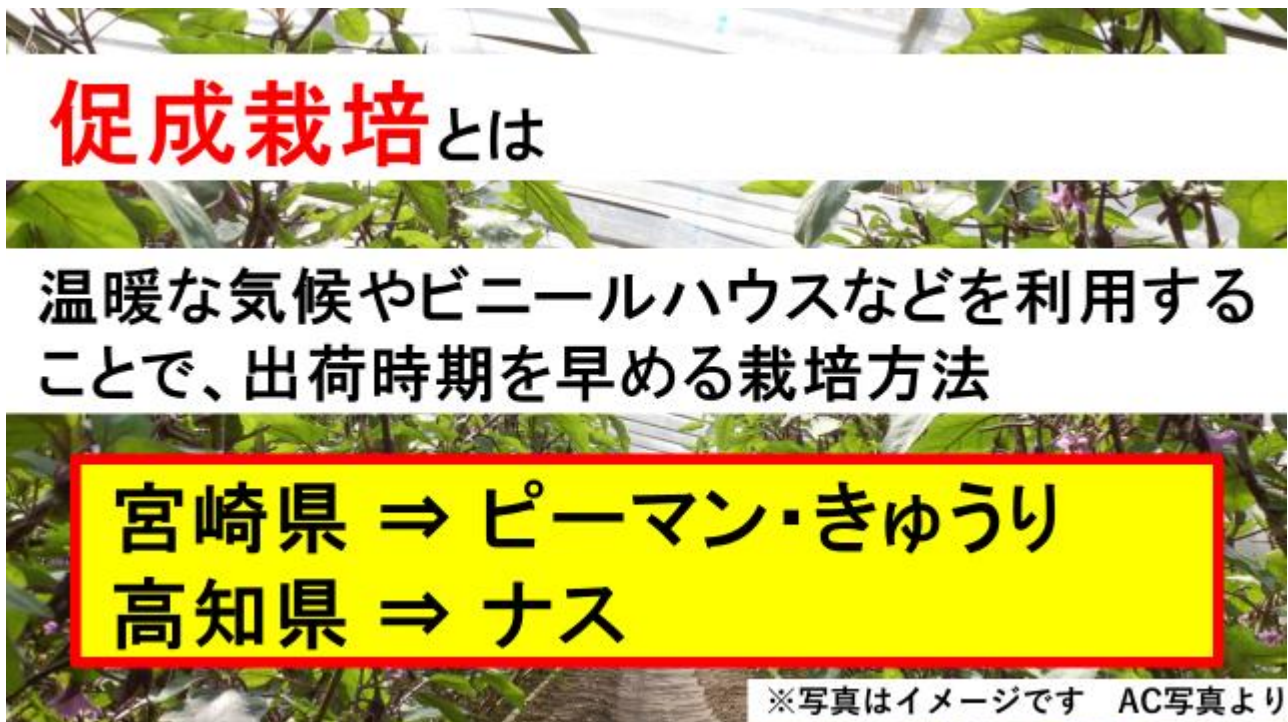


水野忠邦

物価を下げるため、
株仲間を解散

※イラストはイメージです ACイラストより

この特権を与える代わりに営業税を徴収したのが田沼意次、そして物価を下げるために株仲間を解散させたのが、水野忠邦でした。



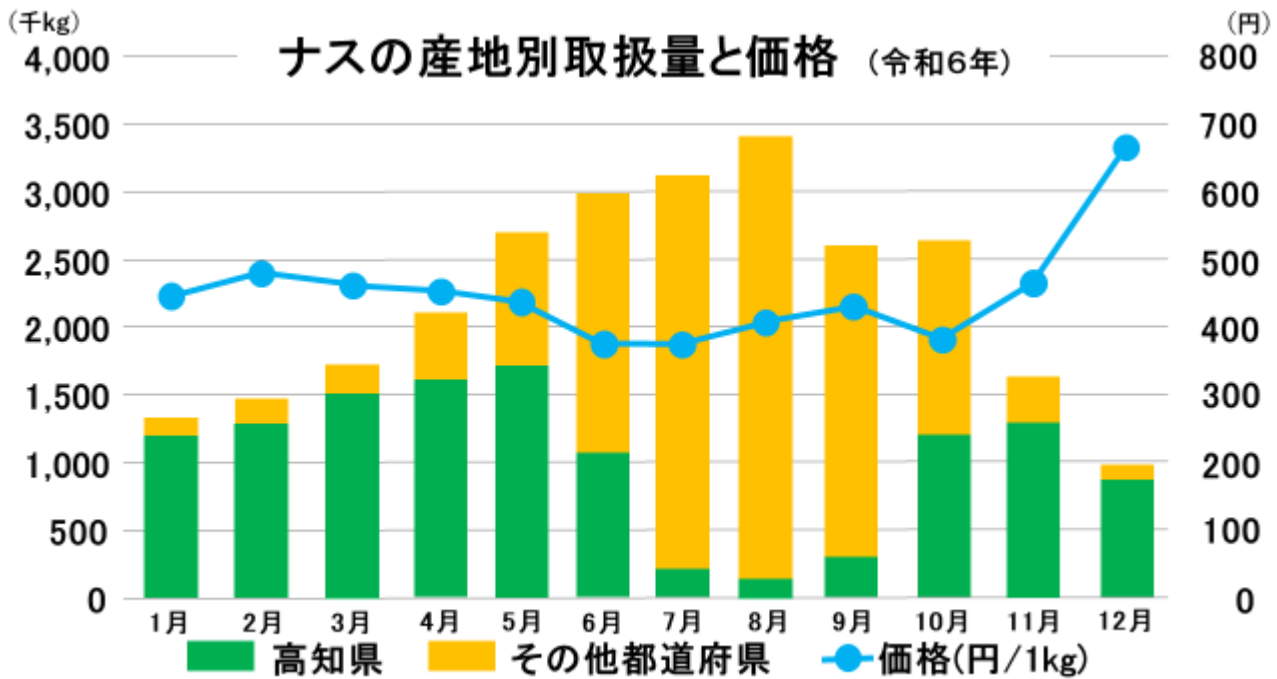
促成栽培とは

温暖な気候やビニールハウスなどを利用することで、出荷時期を早める栽培方法

宮崎県 ⇒ ピーマン・きゅうり
高知県 ⇒ ナス

※写真はイメージです AC写真より

そして、需要と供給は地理分野でもすでに勉強しています。宮崎県や高知県などでは、温暖な気候やビニールハウスなどを利用して出荷時期を早める栽培方法として「促成栽培」があります。



では、なぜ出荷時期を早めるのでしょうか。緑の棒グラフが高知県産のナスの取扱量、オレンジのグラフが其他都道府県のナスの取扱量、そして、青い折れ線グラフがナスの価格を表しています。

11月から5月にかけて、高知県産のナスの取り扱い量が多くなっています。そして11、12月のナスの価格は、他の時期に比べて高くなっています。なぜでしょうか。

他の時期に比べて、**ナスの供給量は少ない**

公立入試必勝ポイント③

需要量 > 供給量

価格は上がる

その理由は、ほかの時期に比べて、ナスの取扱量、つまり供給量が少ないからです。供給量が少なくなると、需要量が供給量を上回り、価格が上がりますね。



Q. なぜ、出荷時期を早めるのか？



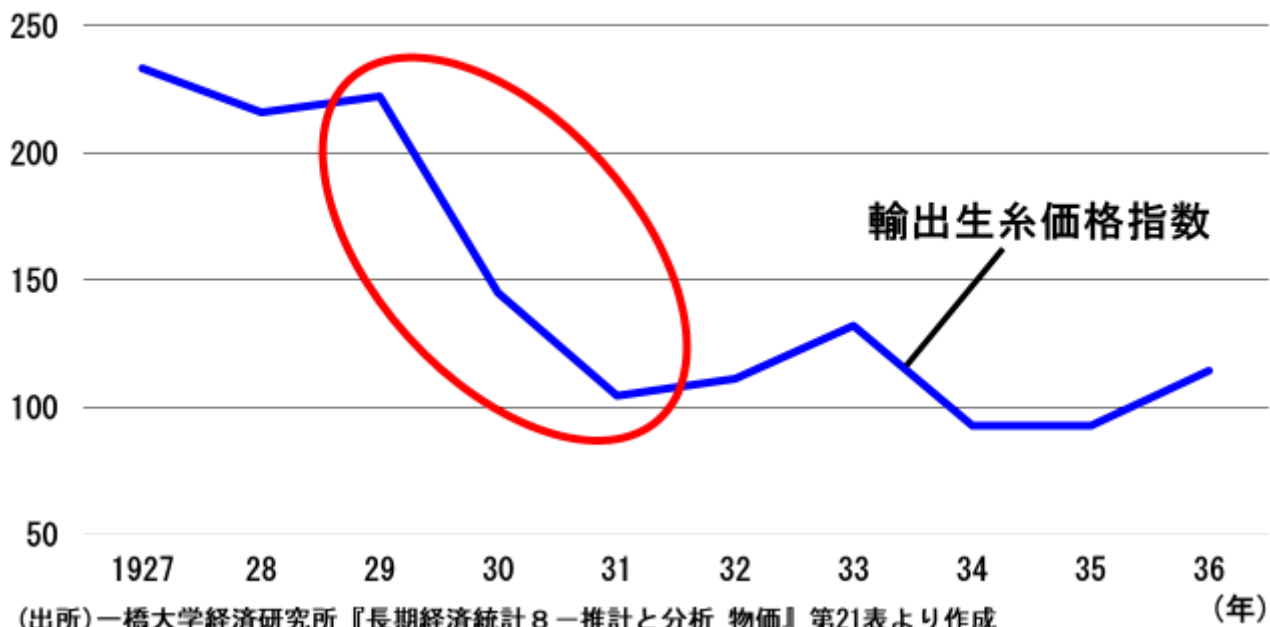
A. ほかの産地と出荷時期をずらすことで、
高い価格で作物を出荷することができるから。



※写真はイメージです AC写真より

したがって、促成栽培で出荷時期を早める理由は、「ほかの産地と出荷時期をずらすことで、高い価格で出荷することができるから」と言えます。

生糸の輸出価格



江戸時代末期から昭和時代の初期にかけて、日本の輸出品の中心は「生糸」でした。生糸の輸出価格の推移を表すグラフをみると、生糸の価格が大きく下落しているのが分かります。では、なぜ、生糸の価格が暴落したのでしょうか。

世界恐慌

【1920年代】

アメリカは好景気による急激な経済成長

【1929年】

ニューヨークの株式市場で株価が大暴落



多くの銀行・会社が倒産



世界に不況が拡大

その理由は、「世界恐慌」が起きたからです。1920年代、アメリカは好景気による急激な経済成長を迎えました。しかし、1929年にニューヨークの株式市場で株価が大暴落します。そして多くの銀行や会社が倒産し、世界中に不況が拡大しました。

アメリカの生糸に対する需要量は少ない

公立入試必勝ポイント③

需要量 < **供給量**

価格は下がる

アメリカの不況により、アメリカの生糸に対する需要が少なくなりました。需要量が供給量を下回る場合、価格は下がりますね。



Q. なぜ、生糸の価格が暴落したのか？




A. 世界恐慌でアメリカの生糸の需要量が減り
アメリカに対する輸出が激減したから。




※写真はイメージです AC写真より

なぜ生糸の価格が暴落したのでしょうか。その理由は、世界恐慌でアメリカの生糸の需要が減り、アメリカに対する輸出が激減したからです。このように、需要と供給は、歴史や地理でも学習しています。



入試問題にチャレンジ

〈平成31年度埼玉県公立入試 大問5 問4〉



大問5 表1

分野	テーマ
消費生活と④市場経済	銀行や日本銀行はどのような仕事をしているのだろうか。

問4

次は、下線部④について学ぶ授業における、先生とKさんの会話です。会話文中の□Ⅰ～□Ⅳにあてはまる言葉の組み合わせとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア. Ⅰ－需要量 Ⅱ－供給量 Ⅲ－上がり Ⅳ－下がり
 イ. Ⅰ－需要量 Ⅱ－供給量 Ⅲ－下がり Ⅳ－上がり
 ウ. Ⅰ－供給量 Ⅱ－需要量 Ⅲ－上がり Ⅳ－下がり
 エ. Ⅰ－供給量 Ⅱ－需要量 Ⅲ－下がり Ⅳ－上がり

最後に、今回扱った需要と供給の知識を使って、入試問題にチャレンジしてみましょう。会話文中の空欄にあてはまる語句の組み合わせを選ぶ問題です。

先生：宿泊料金に関して、資料からどのようなことが読みとれますか。

Kさん：宿泊の曜日などによって宿泊料金が違います。日曜から金曜は宿泊料金が安いです。なぜ曜日によって宿泊料金が違うのですか。

先生：価格は□Ⅰと□Ⅱとの関係 【資料】

で変化します。ホテルなどの宿泊料金の場合、部屋数という□Ⅰが変わらないのに対して、宿泊客数という□Ⅱは変化します。このことをふまえて、考えてみてください。

日曜～金曜	11,000円
土曜・祝前日	13,000円

Kさん：土曜や祝前日は、限られた数の部屋数に対して多くの宿泊客が集まるため、宿泊料金は□Ⅲです。日曜から金曜は、土曜や祝前日に比べて、宿泊客が少なくなるので、宿泊料金は□Ⅳです。だから、宿泊料金に違いがあるのですね。

先生：そうです。曜日などによって宿泊料金が違う理由が理解できましたね。

実際の会話文です。前半、後半に分けて考えてみましょう。

先生：価格は□Ⅰと□Ⅱとの関係で変化します。ホテルなどの宿泊料金の場合、部屋数という□Ⅰが変わらないのに対して、宿泊客数という□Ⅱは変化します。このことをふまえて、考えてみてください。

【資料】

I — 供給量

II — 需要量

〈Gホテル宿泊料金表〉	
日曜～金曜	11,000円
土曜・祝前日	13,000円

ウ. I — 供給量 II — 需要量 III — 上がり IV — 下がり

エ. I — 供給量 II — 需要量 III — 下がり IV — 上がり

まずは前半の会話です。需要量は、「消費者が買いたい(ほしい)量」、供給量は「売りたい量」でした。今回は、消費者は宿泊客で、ホテルの部屋を求めているため、IIには需要量が入ります。反対に、商品となる部屋数は供給量となることから「ウ」と「エ」が正解だとわかります。

Kさん：土曜や祝前日は、限られた数の部屋数に対して多くの宿泊客が集まるため、宿泊料金は□Ⅲです。日曜から金曜は、土曜や祝前日に比べて、宿泊客が少なくなるので、宿泊料金は□Ⅳです。

公立入試必勝ポイント③

需要量 > 供給量

価格は上がる

需要量 < 供給量

価格は下がる

後半の会話を見てみましょう。部屋数が供給量、宿泊客数が需要量です。限られた部屋数に対して宿泊客が増えると、需要量が供給量を上回り、価格は上がります。反対に日曜から金曜は、需要量が供給量を下回るため、価格は

下がります。

Kさん：土曜や祝前日は、限られた数の部屋数に対して多くの宿泊客が集まるため、宿泊料金はⅢです。日曜から金曜は、土曜や祝前日に比べて、宿泊客が少なくなるので、宿泊料金はⅣです。

だから、宿泊料金に違いがある【資料】
のですね。

先生：そうです。曜日などによって宿泊料金が違う理由が理解できましたね。

日曜～金曜	11,000円
土曜・祝前日	13,000円

- ウ. I－供給量 II－需要量 III－上がり IV－下がり
エ. I－供給量 II－需要量 III－下がり IV－上がり

以上のことから「ウ」が正解だとわかります。需要と供給の関係を使って入試問題を解くことができましたね。

公立入試必勝ポイント①

物価は、主に

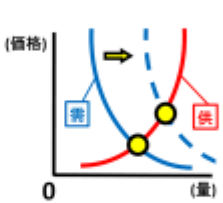
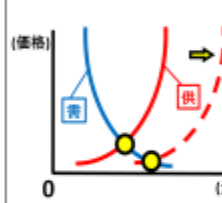
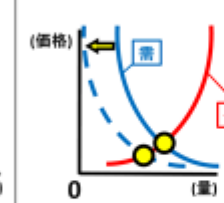
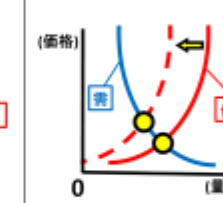
需要量と**供給量**

で決まる

需要量 → 買いたい(ほしい)量

供給量 → 売りたい量

公立入試必勝ポイント②

	曲線が 右 に動く		曲線が 左 に動く	
グラフの変化				
需要量と供給量の変化	需要量が 増加	供給量が 増加	需要量が 減少	供給量が 減少
価格	上がる	下がる	下がる	上がる

公立入試必勝ポイント③

需要量 > **供給量**

価格は**上がる**

需要量 < **供給量**

価格は**下がる**

まとめです。商品の価格は需要量(買いたい量)と供給量(売りたい量)によって決まります。需要量、供給量の変化によって価格は変動します。

需要量が供給量を上回ると価格は高くなり、需要量が供給量を下回ると価格は低くなります。グラフ上での動きも含めて覚えておきましょう。